



「手を合わせて祈る心を育みましょう」

梅雨がなかなか明けず大雨や雷雨、太陽が顔を出せば、蒸し暑く、熱中症嚴重警戒が頻りにでていた7月でした。そんな中でも子ども達は午前中にプールに入ったり泥んこ遊びをしたりと沢山の遊びを楽しんでいました。小さい年齢の子ども達は手足口病が流行し、発熱や湿疹で大変でした。これから増々熱くなる時期、体調には十分注意していきたいと思います。

さて、8月の目標は「手を合わせて祈る心を育みましょう」です。朝夕、マリア様の御像の前で親子一緒に手を合わせて祈っている姿は見ていて微笑ましいものです。朝の集いの時も「今日も元気に皆と一緒に遊べますようにマリア様お守りください」と祈ります。ある時は先日の大雨で糞虫になった方たちのために祈ります。自分のためだけでなく誰かの幸せのために祈ります。誰かのために祈る事を子ども達は素直に出る心を持っています。お盆になるとお墓参りに行く機会もあるでしょう。ご先祖様が察してくれた上に私達は生きているのです。子ども達に手を合わせて祈る心を知らせてあげてください。

話は変わりますが、先日保育士が研修会に行ってきました。

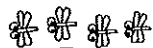
演題は「からだづくりの根っこは0歳から」～乳幼児の運動発達を促す支援～ というものでした。内容をかいつまんで書きますと、乳幼児の運動発達の原則は仰向けで遊ぶ[触る、舐める(手足目の協応)]⇒寝返り⇒うつ伏せ(遊ぶ)⇒ずり這い⇒四つん這い⇒高這い⇒お座り⇒膝立ち⇒立ち上がり⇒立位。人の発育発達に飛び級はなく、これらを飛び級してしますと子ども達の運動器にも影響を与えてしまう。飛び級をせずに発達していくと良い姿勢もつくられる。良い姿勢になるための筋肉が動くためにはセロトニンが必要で、しっかり分泌するためには「早寝、早起き、朝ごはん」が大事だということでした。

日頃から子ども達と保護者の皆様も「早寝、早起き、朝ごはん」を心がけ、健康な心身を作っていきますよう。

今月のうた

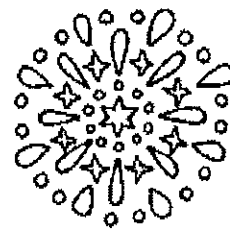
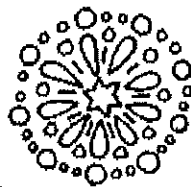
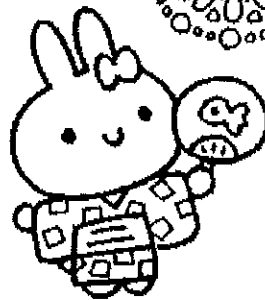
<マリアさま>

まりあさま おててあわせて いつのひも わたしのために いのりくださる
おきるから やすむときまで ちちはの みこころにそい よいこであれと
まりあさま おててあわせて いつのひも わたしのために いのりくださる



<とんぼのめがね>

とんぼのめがねは みずいろめがね あおいおそろをとんだから とんだから
とんぼのめがねは びかびかめがね おてんとさまをみてたから みてたから
とんぼのめがねは あかいろめがね ゆうやけくもとんだから とんだから



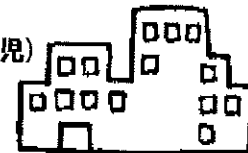
行事予定

2日(水) 静修の日(3~5歳児)

8日(火) 西瓜割大会

18日(金) 誕生会

?日 避難訓練



おとうさん・おかあさんから

震災からちょうど半年後に生まれた〇は、身体が弱く、半年間は病院通いの日々でした。

食物アレルギーもあり、普通の粉ミルクが飲めない中、ほんび組から入園し、先生方には本当にお世話になりました。特に、離乳食についてや弟が生まれて不安定な時期などは相談にのって頂き、親子共々見守って頂き、感謝しています。

保育園での食事と生活のお陰で、今は元気いっぱい弟想いの優しいお姉ちゃんに成長してくれました。好奇心旺盛で気が強く頑固な〇ですが、仲良く遊んでくれているお友達・優しく見守って、時にはきちんと叱って下さる先生方、ありがとうございます。

残り少ない保育園生活で「4つのこころ」をしっかり身に付けて、楽しい思い出をたくさんつくってほしいと願っています。

(ひつじ組 ○○○○ ○○○ちゃんのおかあさん)

8がつうまれのおともだち

おたんじょうび
おめでとう





クラスだより



○ ぼんび組 (0歳児)

<ねらい>

- ・手を合わせることを知る
- ・水分補給や休息を十分にとり、暑い夏を快適に過ごす

<家庭連携>

- ・食事の挨拶等やお墓参りの際、手を合わせてみせ、真似しやすいようにしましょう
- ・暑さで体調を崩しやすくなるため、生活リズムを整えたり十分に休息をとりましょう

○ ひよこ組 (1歳児)

<ねらい>

- ・日常生活を通し、手を合わせて祈ることを知る
- ・暑い夏を健康に過ごす

<家庭連携>

- ・食事の挨拶等やお盆の墓参りをする時に、手を合わせて祈ることの大切さを知らせながら一緒に祈りましょう
- ・夏の暑さから疲れが出てくる時期ですので休息を十分とるようにしましょう



○ ことり組 (2歳児)

<ねらい>

- ・手を合わせて祈ろうとする
- ・自分で身の周りのことをしようとする

<家庭連携>

- ・食事の挨拶等の時やお盆の墓参りの時に、手を合わせて祈れるように知らせていきましょう
- ・食事、排泄、衣類の着脱などの身の周りのことを自分でしようとする時は見守り、出来た時は褒めてあげましょう

○ こねこ組 (3歳児)

<ねらい>

- ・手を合わせて祈る心を育む
- ・暑い夏を健康で快適に過ごす

<家庭連携>

- ・家庭でもお盆や食事の前後の挨拶を通して、手を合わせて祈る大切さを知らせていきましょう
- ・夏の疲れが出やすくなるので、細目な水分補給や休息を心がけ健康に過ごせるようにしましょう



○ うさぎ園 (4歳児)

<ねらい>

- ・祈ることの大切さがわかり心をこめて祈る
- ・健康に夏を過ごす

<家庭連携>

- ・家庭でも食事前後にしっかり手を合わせ挨拶したり、誰かのために心をこめて祈ることを知らせていきましょう
- ・運動会の練習が始まりますので朝ご飯をしっかり食べ、休息をとってください



○ ひつじ組 (5歳児)

<ねらい>

- ・心を込めて、自ら祈る
- ・運動遊びを通して物事に取り組む意欲と達成感を味わう

<家庭連携>

- ・お墓参りなどに一緒に行き、どのような思いを込めて祈ったらよいかわらせてあげましょう
- ・運動会の練習が始まるので、動きやすい服装で登園しましょう
- また、規則正しい生活をし、十分に休息をとるよう心がけましょう

○ 給食室

暑い日が続きます。冷房などで急激な気温変動があり、体調を崩しやすい時期です。十分な休息、バランスのとれた食事、水分補給を大切にし、熱中症に気をつけましょう。



「手を合わせて祈る心を育みましょう」

子どもの頃、お墓参りに行った時に「線香をあげたら手を合わせてね」と言われ、手を合わせるものの何を思って手を合わせたら良いのかわかりませんでした。「ご先祖様見守っててくださいって手を合わせればいいんだよ」と教えてもらいましたがきちんと理解していませんでした。

毎年お墓参りには行っていたのですが、ただ何となく手を合わせているだけだったように思います。

カトリック保育園で働くようになり、手を合わせる機会が増えることにより、自分の為に祈るだけでなく人の為に祈る事の大切さを知ることができました。

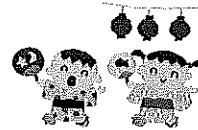
保育園の子ども達の中には、まだ手を合わせることを理解できない年齢の子もいますが、少しずつ手を合わせる事の大切さを伝えながら保育していきたいと思っています。

<ぼんび組担任 島山 歩>





あなたの一分間拝借！



人間は、理性的動物であると同時に宗教的動物でもあるといわれます。誰でも神から頂いた宗教心、人間である限り、人間だけにある神とのかかわり、神の像（かたどり）を受けている事実が潜在しているのです。食べたり、飲んだり、子育てに励んだりするだけなら動物となんら変わりがありません。動物と本質的に異なる点、それは宗教性が与えられていることです。聖書によれば、人間は神の息吹によっていかされた科学的元素から成立している肉体と神の似姿である霊性即ち肉体と靈魂が与えられた存在であることが啓示されています。8月のテーマは「手を合わせて祈る心を育みましょう」ですが、先ず祈ることについて分かち合いたいと思います。

祈ること、それは人間だけにある素晴らしいエネルギーだと思います。普段は眠っております。祈る気持ちなどさらさら湧いてこないものです。祈りなんて老人や子ども達のような弱い人々の慰めごとに過ぎないのではと大多数の方々は思い込んでいるようです。しかし、この眠れる潜在的な能力が突然顕れる（あらわれる）時が訪れるのです。神様なんて口にしたこともない人が『神様助けてください』という心の叫びを誰しも認めざるを得ない時にハッとさせられるものです。それは、人が神の似姿、神の像（かたどり）として、人たるしるしとして霊性を与えられている何よりの証拠なのです。この霊的力がさまざまな雑務や欲望に禍されて芽を出さず、或いは出しかねている状態が物質文明の豊かさの中に浸っている姿といつも反省させられるものです。祈り、それは魂の息吹です。魂の神への挨拶に他なりません。

ん。各位の魂があなたといつも生きていたいと永遠に望んでいる「内なる心の叫び」でもあります。神との対話が静かに心を真、善、美なるものに向けさせてくれるもので、祈れば祈るほどその人の人間性は神の御心に叶うようになります。勿論、そこには各位の協力が生活の流れの中で伴わなければならないことに、心の目を向け自重自戒いたしましょう。なぜなら私達は、形式的に祈っている場合が多いからです。雑念を避け、清き心で、祈らなければその効果は無に等しいでしょう。自己本位の祈りをしないよう心掛けたいですね。

聖書によれば『主よ、主よという者が皆天の国に入るのではない。主のみ旨（むね）を行うものだけが天の国に入るのである』と仰せられていることに目覚めましょう。真の祈りは、『よく生きる』と言うことに繋がります。祈ってよりよく生きるところに祈りの真相があります。ある幼稚園の子どもが、誕生会で誰に言われたわけでもないのに礼拝堂に行って手を合わせ『神様今日、僕は5歳になりました。ありがとう』と言ったことは、祈りとは何か？を表していることと思います。この子どもは、様々な生活の流れの中でしかも自分の言葉で、神にお話が出来たのです。作られた祈りを暗唱して祈るのではなく、自分なりの言葉で日々の喜び、悲しみ、苦しみ、日常生活の報告を申し上げるところに本当の祈りの姿があります。

8月は『手を合わせて祈る心を育みましょう』です。

祈ることは、弱い老若男女の専売特許ではありません。祈ることは、よく生きることです。よく働くことです。子ども達の心の奥底に潜在的な能力としてお与えくださった愛である神の贈り物を無用の長物として眠らせず、大人である私たちが模範を示しながら祈りつつ人間性教育の豊かさに力を尽くして頂きたいと思います。

カトリック古川教会

司祭 川井 啓